

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4141	施策名	商工業が盛んなまち	主 担 当 課	経済観光活性課
大項目	活気あるまちづくり				
基本 方針	商店街のにぎわいの創出のため、商工会議所等関係機関との連携により活性化を図ります。 地域の産業活動・経済活動の活性化のため、商工会議所との連携により市内の中小企業に対して支援・情報提供などを行い、また、国・県などの各種融資制度の周知を図り、中小企業の経営基盤の安定化につなげていきます。 地域産業の競争力を強化するため、地域の優位性や特性をいかし、競争力のある産業の育成と新たな産業づくりに取り組んでいきます。			関 係 課	

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	商店街振興事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内商店・商店街		市内商店・商店街の発展を支援することで、市内環境や市民生活の活性化を図る。				市内商店・商店街の振興を図る。						
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度				
取組内容	●各種イベントの開催 ●空き店舗の有効利用		⇒		⇒		⇒					
直接事業費	決算額	8,790	千円	決算額	9,016	千円	決算額	8,970	千円	決算額	8,770	千円
	うち一般財源	6,290	千円	うち一般財源	6,516	千円	うち一般財源	6,270	千円	うち一般財源	6,270	千円

2	商工業振興事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内企業・商店		企業・商店が活発に活動・発展することにより、市内環境や市民生活を活性化する。				・工業振興において、経営の近代化や情報通信技術の活用等による円滑な発展に努める。 ・中小企業の経営の安定化を図るため、小規模企業対策資金保証融資制度の充実を図る。							
		平成23年度		平成24年度			平成25年度			平成26年度			
取組内容		●笠岡市小規模事業対策資金保証融資制度 ●中小企業信用保険法に基づく認定 ●産業活動の支援 ●新たな産業づくりへの支援		⇒			⇒			⇒ ・小規模事業者経営改善資金利子補助金の創設 ＜補助金交付件数:32件＞ 中小企業支資金融資制度の融資限度額、融資期間の拡充 ＜融資利用件数:55件＞			
直接事業費		決算額	11,099	千円	決算額	7,335	千円	決算額	4,920	千円	決算額	4,952	千円
		うち一般財源	11,099	千円	うち一般財源	7,335	千円	うち一般財源	4,920	千円	うち一般財源	4,952	千円

3	起業支援															
事務事業の目的						事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
新規創業者		新規創業者に対して、市内産業の振興、雇用の促進及び定住を勧める				これから市内で起業する人を対象に、起業にかかった経費の一部を事後的に補助する。新規起業者を支援することで市内産業の振興・雇用創出を図る。										
取組内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度						
							起業支援制度について、分かりやすい内容の情報発信を行う。商工会議所等関係機関との連携を深めながら、制度の活用を行う。			創業サポートセンターによる相談窓口体制の整備 ＜補助金交付件数:8件＞						
直接事業費	決算額	5,635		千円	決算額	15,145		千円	決算額	7,263		千円	決算額	8,423		千円
	うち一般財源	5,635		千円	うち一般財源	15,145		千円	うち一般財源	7,263		千円	うち一般財源	8,423		千円

4	創業塾支援事業																					
事務事業の目的							事務事業の内容															
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																				
笠岡商工会議所		笠岡商工会議所が主催する創業塾を笠岡市が支援することで、より内容の充実した創業セミナーを開催することが可能となる。その結果として、起業予定者の起業の実現性を増大させ実際の起業へとつながることを目的とする。					笠岡商工会議所が行う「かさおか創業塾」に対し、運営費の一部を補助し、内容の充実した創業塾とさせる。															
平成23年度														平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	インターネット、チラシによる受講者募集のPRを行う。			⇒			⇒			⇒ ＜受講者数:14人＞												
直接事業費	決算額	400	千円	決算額	400	千円	決算額	400	千円	決算額	400	千円										
	うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円										

＜3.施策の直接事業費(2の合計)＞

平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度	
直接事業費	25,924	千円	31,896	千円	21,553	千円	22,545	千円		
うち一般財源	23,424	千円	29,396	千円	18,853	千円	20,045	千円		

＜4.指標＞

指 標 名				目標・実績の推移					
				H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1	製造品出荷額	単位	目標				1,840	1,880	1,880
		億円	実績	1,887	1,706	1,839	1,740	—	
			達成率				94.6%		
2	1年間に小規模企業対策資金が利用された件数	単位	目標				60	70	85
		件	実績	103	73	37	62	55	
			達成率				103.3%	78.6%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・共同宅配事業や、新製品開発支援事業など、顧客ニーズの充足やベンチャー支援が必要と考えられます。	→ ・笠岡市では、笠岡商工会議所、市内金融機関、そして笠岡市で平成25年12月には包括協定を締結し、市内の起業する人の相談窓口として、かさおか創業サポートセンターを立ち上げました。来年度は、センターの拠点施設を整備する予定にしています。 ・市内の中小企業は近隣の大学との連携が難しい状況にあります。来年度は、岡山大学など県内の大学等や県内の経済団体等で構成される岡山産学官連携推進会議と市内の中小企業が交流する交流会の開催を考えています。市内の中小企業が「学」と連携することにより新商品や新技術を開発し、イノベーションを起こせるよう支援していきたいと考えています。
・昔ながらの商店街の活性化は難しい。方向転換が望まれる。	→ ・今年度から、中小企業支援資金融資制度の改正や、経営改善資金に対する利子補給金の創設により、商店の経営安定化を図っております。商店街の事業者自らが、時代の流れや消費者の動向など社会的ニーズを的確に把握し、近隣にない個性的で特色のある店舗づくりができるよう商工会議所と連携し支援することとしています。
・地域ブランドを発展させるためにも、農業、漁業、林業、工業、商業、その他特色のある各業を融合させた場を以って進めていかなければ市民の総意として、特色を生かすことはできないと思います。部を越えた協同を希望します。	→ ・平成26年3月に産業振興ビジョンを策定し、この産業振興ビジョンの具体的施策を計画的に実施するために4月にかさおか新しいしごとづくりセンターを建設産業部に設置しました。センターの職員は、経済観光活性課と農政水産課の職員とで構成されています。センターでは、企業誘致、中小企業振興、起業支援に加えて、笠岡ブランドの推進や農林水産業の6次産業化や観光振興にも取り組むこととしています。 ・地域ブランドを確立していくためには、地域に住む人々が自らの地域に誇りと愛着を持つことが必要です。現在、地域住民、生産者、商工業者等多くの関係者が参加する「かさおかブランド協議会」におきまして、市民参画、協働のもとに、笠岡青年会議所が事務局となり積極的に事業を進めております。笠岡市もかさおか新しいしごとづくりセンターの職員が参加し共に活動いたしております。

<6.平成26年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案	・市内でのさらなる起業を支援するために、創業サポートセンターによる起業者の相談体制の整備と起業後のフォローアップ体制の充実。創業塾受講者のビジネスプランの相談体制の強化。 ・市内事業者の産学官金の連携による新製品、新技術、新サービスの開発を支援し、イノベーションの支援を行えるよう岡山産学官連携推進会議と市内事業者との交流会の実施。 ・商店街を含めた地元商店での購買促進のため、笠岡市プレミアム商品券補助金事業を実施。 ・行政と地元中小企業との信頼関係を構築するため、企業コーディネーターによる企業訪問の実施。
--------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	C	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	C
コメント	・高齢化社会の進展により、買物弱者が増加しつつある中で、商業者が共同で情報ネットワークを活用した販売の検討も必要と考えられます。 ・商店街のアーケードの撤去を考えて欲しい(補助金の獲得)。 ・商店街において、空き家補助事業(家賃補助等)の導入をして、借りる人、貸す人にメリットがあるようにして、新規に商売を始めたい人を増やしていただきたい。 ・商店街がシャッター通り化して久しい。他都市の通りでは、通りならではの工夫が見られる所がある。大いなる自助努力を期待している。			